



喜小だより



令和6年1月12日発行 発行者 黒田敦子

自ら学ぶ子 思いやりのある子 健康な子 一人一人がきらきら輝く喜連川小学校

～2024年の幕開け～ 今年は辰年！スケール大きく活気あふれる年に・・・

本年も、どうぞよろしくお祈りします。干支は辰ということで、十二支の中では唯一空想上の生き物で、活力旺盛と言われます。児童が夢や目標に向かって力強く躍進する年になることを願っています。

1月9日の第2学期後半の始業日には、児童の元気な笑顔が学校に戻ってきました。年末年始は、伝統行事や親戚の人との関わりを通して児童は心と体にエネルギーを充電したことでしょう。職員一同心を新たに、児童の更なる成長のために努めていきたいと思っております。保護者の皆様の変わらぬご理解とご協力をよろしくお祈りします。

元気、活気、やる気



★第2回学校運営協議会 12月15日★

第2回学校運営協議会では、6月以降の本校の取り組みや学校評価等について委員のみなさんに説明した後、各教室の授業を参観していただきました。今回の熟議では、継続して行っているあいさつの活性化や、地域で児童の登下校の安全を見守る方法等について話し合いました。今後、具体化に向けて取り組んでいきたいと思っております。また、委員のみなさんから、授業の中でのICTの活用法やチームティーチングによる学習形態などについてご質問やご感想をいただき、今後の方向性に見通しを持つことができました。

本校教育活動の向上と改善のために、ご協力いただけることを本当に力強く思います。



★さくら市学力テスト 12月12日★

さくら市内全校で一斉に実施されました。小学生は国語と算数のテストを受けました。結果を分析して学習内容の定着状況を確認し、今後は進級に向けて課題となったところを重点的に復習します。各学年の学習内容の理解を高めて進級できるよう、ご家庭の協力をよろしくお願いいたします。



★篤行善行少年表彰 12月19日★

この賞は、学業やスポーツ等に熱心に取り組み、周りの人に思いやりをもって接したり公正公平に行動したりして、友達の模範となる児童・生徒に贈られるものです。本校では以下の2名の6年生児童がその表彰を受けました。

安齋 栞平 さん
遠藤 絢那 さん

おめでとう
ございます



～保護者の皆様、学校評価お世話になりました～

お忙しいところ、ご回答くださりありがとうございました。保護者や地域の皆様の貴重なご意見を参考に、本校の教育活動が更によいものになるよう努めていきます。また、たくさんの方の励ましや感謝のお言葉をいただき、仕事とはいえ日頃の努力が報われる思いで、教職員一同大変ありがたく思っております。



★ さくら市こども絵画展 ★

さくら市ミュージアムにて、市内の小中学校の児童生徒の入選作品を展示する絵画展が冬休みに合わせて開催されました。中にはすばらしい賞をいただいた児童もいます。絵画に上手や下手はなく、どれも児童の思いが表れています。これからも、一つの表現として豊かな感性を絵画にのびのびと表してほしいと思います。



12月～1月児童のアルバム



★ 琴の演奏・体験 12月12日 ★

6年生の音楽の授業で、ボランティアのみなさんに琴の演奏を聞かさせていただきました。日本の伝統楽器である琴の澄んだ美しい音色に聞き入ったあと、児童は琴の演奏体験をしました。「さくらさくら」を練習すると「楽しい。」の声が聞かれ、最後には伴奏に合わせて、希望者がみんなの前で演奏しました。DVDではできない実際の鑑賞や演奏の体験ができました。



辰年は「活気にあふれ事が大きく動く」と言われますが、新年早々、能登半島の地震や航空機事故と、いたましく切ない出来事が続きました。そのことをめぐって、児童も家庭できっといろいろな話をしたことでしょう。自分たちには今何ができて何が大切なのかを考えていきたいと思えます。神様に家内安全や健康を願うのは、昔から人生何が起こるか分からないと知っているからこそ。それでも、人は希望を持って生きるたくましさをもっていると思えます。正月、校庭で澄み渡った空を泳ぐ竜の姿を想像してみました。竜は、喜小の子どもたちの希望を乗せて悠々と昇っていきました。



初春や 雲なき青空 背景に
希望をたたえて 竜のぼりゆく

校長室の窓から

181万アクセス突破！！

児童の活動の様子は、こちらのQRコードから→



喜小だよりのカラー版は、こちらのQRコードから→



★ 安全教室 12月22日 ★

ALSOKのみなさんによる安全教室を下学年と上学年に分かれて行いました。

【下学年】

不審者から身を守る「いかのおすし」や危ない誘いを断る方法などを実演を交えて学びました。



【上学年】

町の地図上で危険箇所をチェックし、なぜ危険なのかを話し合い、危機管理の力を高めました。

